

環金係前) 及東環ノ退職金ヲ支給ス

(白) 為別送ニ金一封ノ金額ハ勤績年限ニ不拘

運転年五十円、年掌二十円

ト内示セリ

② 従業員側

従業員側ニ於テハ退職年當ハ會社内規ニヨリ止ムヲ得ヌ
トスルモ

金一封ハ解散年當(會社側ニ於テハ解散年當ニ非ヌト稱
シ居ル趣キ)ヲ意味スルモノニシテ後東ノ例(東環各係
當時諸會社ノ年當)ニ比較シ僅少ナリトシ之カ増額方ヲ
要望スルニ至レリ

七 第一次會見狀況

四月廿六日午後三時頃従業員代表菅原虎登、小林達三ノ二
名ハ東環本社ニ老保澤副社長ヲ訪問セシモ不在ノ為河西常

務ト會見金一封ノ増額方ヲ考慮サレトシ口頭ニテ嘆願セ

シニ各常務ヨリ善處スル旨ノ回答アリ依テ代表ハ之ヲ諒ト

シ今四時頃辞去セリ

ハ 退職金及金一封ノ支給

會社側ニ於テハ四月三十日午前十時頃

一 退職金(最高約六百七十円、最低約百六十円)

二 金一封(運轉年五十円、年掌二十円)

ヲ従業員ニ支給セリ

後従業員側

従業員側ニ在リテハ前記金内ヲ受領セシモ尚金一封ハ河西

常務トノ口約セシニ不拘増額ホキヲ以テ不當ナリトテ寄ル

故議ノ上再嘆願スルコトトセリ

九 第二次會見狀況

四月廿七日午後五時頃従業員代表菅原虎登、小林達三、杉山重男